三教奥義我集文書明注
特別
A5
6712

6712

連歌奥儀集附書明鏡秘説

〈2016-184〉

をるかうしのまちの飛いっかうるゝん宮人今
仮初もなる事なるかけ道に出しまつり秋
体例の風をふくむ老ゝ沖の底に拾さらせて
侍人つきぬこゝ脇ゝ

目次

入吉相撲の事
食今加字の事
ちかい食今拭事
大きりの事
ちゝの事
こゝろの事
二十の事
てゝのいの事
てゝのいの云のこゝろ
十六てゝのいの事
ゆの詠の百今の事

[illegible]事
下の分てきりの事
〃 [illegible]の事
〃 [illegible]の事
[illegible]の事
[illegible]の事
ねのふ刻の事
[illegible]の事
[illegible]の事
[illegible]の事
もうハの事
[illegible]もの事
[illegible]文化文の事
[illegible]の事
[illegible]の事
[illegible]二十二ケ條の事
かゑ[illegible]二六ケ條の事
[illegible]の事
ものゑゑにケ條の事
[illegible]の事
[illegible]の事
[illegible]の事

七条の事
のくちの事
しとの事
ゆしとの事
十二ケのちれさの事
てはいはゆ
そうの事
ばうちの事
十四てはいの事
ちのまんぬの事
さしのてはいの事
みのうえてのの事
八十八ぬ又八ぬのの
うけてはいの事
けてはいの事
二てはのの
二てちの事
こうさのの事
ほさのの
はの事
はの事
ぬ説ぬ説の事

下総国の事
武蔵の事
美濃国の事
ありまの国の事
上総国の事
一国不二人の事

以上百十一ヶ條に付外篇結
可也

大和相通の事

一 ア カ サ タ ナ ハ マ ヤ ラ
二 イ キ シ チ ニ ヒ ミ イ リ
三 ウ ク ス ツ ヌ フ ム ユ ル
四 エ ケ セ テ ネ ヘ メ エ レ
五 オ コ ソ ト ノ ホ モ ヨ ロ

資勾切字の事

新人丁鳥巾ものの心路なる
かゝるたをよるなれ尺も及
ばすまいるべき言葉のたの言
きえぬ名清吉清すまその極
いつとなんゝ花の元葉の代紅葉
初言の在いんのちゝ
和歌なうれいしゝ
秋深し霧が水沈トもち
霧や色もの物の明ケ方
かゝきそやい初ノのか夜花

むらもみぢ誰がいろとかはきけむ
花いろかりかとぞひとしきかの海
雪もちる葉いろをきそふ花ぞ立つ
月夜いろ木の下闇の松の海
秋の色をとりいれぬ風
ところいろ飽れぬいりまのむ
雨を夜いろ雪もまぜ夜弾れた
ふるさとの如むら月夜牡丹
花いろかりまぜ葉ちるき秋の雨
雪の花ちんしろ雨まの風
けかりけり

きりぎりす　きそ　ろん　りこ　あ敷
年ぬ鈴いさ　ふ　いうて　ごろ　らば　雲の
まぬ木のしるこのしいこ　ちふのぬもうぬをさか
鈴のうこ成敗のうこいかもちかい

玄妙食々
松の花や雪ちん
小ふるしふや雪ちん
月細し柱や雪ちん
花そこうさ月や柱ちん
とこそとしそやのてよりそうもの内ちかうこつ

[illegible]

梅[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]月和尚峯のたに風谷の水
[illegible]峯たに風吹上こえ
[illegible]
行月[illegible]くもつくるの声
[illegible]
[illegible]
三[illegible]切の事
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

二[illegible]切の事
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

十六日の事

さく夜の風雨に花も紅葉か
ちりぬ月桂の木陰うる

紅の色葉ちりぬ木陰にそふ今やるのうへをのけて
秋ゆくまとかるゆ(まさ)こてはいとしいへり
夕のまよ法てい之ゆ之ゆ

屋敷にて秋の月うつりて落ちうる
うつりて紅葉ふるつく庭をうれ

紅葉ちりぬれてちりぬれとうれ之法之
さる間ろのまとのけてい者うとんしへし
さかはんこを弾して其ようとそ

十九日の事

てよ命もいて
かる新月ゆ〳〵さる事
作ふうの木の葉吹ふ風ふる
吹ふ木ぬ作ふるいさかしいかうる法ふる之
かる之ふのうとていとまりていい

十日の事

ちりぬ法ふ仏事
なことん秋ゆ之と紅葉葉
紅葉ふ人(いはんんのふ切さふふ
ゆ中いむ人ふ秋中と事ゆ中へと
秋とふん花い桂中の秋の葉
吹ふもゆん花い紅解ふよりゆ

[illegible]

下の句てきりはめまの事

秋の山月見いのうて

[illegible]

[illegible]

大[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

上の句はいかゝ

[illegible]

琴 詩 酒 友 君 雪 月 花

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

八雲は影ふかく定らぬ水かもくれぬ烏羽
玉の夜の月を引まとひ
何人もの事
泊ぬる七井の清水ひとすじ
小藤さく卯月の山の行のゆくる
いさ人にもとうまし人や
京と又田舎の事
又やはらかなる麻の声
又もとゝ松ばとゝ
赤い京又ない田舎や
千万の事
をもまし

を用もるを荷とはの松
ハ又ゝの情ハ浪のゝ
に絶てゝ
も伸ゝ
明暮ゝ
波をハもかゝ
ゝもゝ
いゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ

[illegible]

[illegible]二日の夕

[illegible]

九のやとしの

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

歌　思ひかねかくれぬ[illegible]

[illegible]

[illegible]

の花ゝ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハと咲[illegible]
まをたゝ[illegible]

ハあ[illegible]

秋の田[illegible]の上を[illegible]猫[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

夕月夜[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

きゝもさとらぬほとけ
明ん院なるきし海上の秋と
ゝてよりて月日やとゝ
ゝいてくいせ人をゝもいせのハとはそてはいるこゝ
かゝるあとゝ
いるん寺ゝ円徳院は世のうきもよはなれまん
ゝるひるまてゝ日と沐のんゝ新さてゝ見るのらん
ゝとゝうゝ
てきゝてよいゝ月ゝ
ゝゝきゝかゝ新をゝ形きゝ
はゝてよい
ゝてしゝゝいゝ人ゝゝゝれいゝゝゝのゝゝ夜

記

もゝ宮ゝ
ゝゝんのゝ　ゝゝん　ゝゝもゝ　ゝゝゝ
秋の夜の月ゝゝ
明ゝ
ゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ

かゝゝ一　孔ゝ一　咸ゝ　ゝ　ゝ　

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

四月の花の盛りとなりぬれば
大宮いまし人のもとにかはぬまの
山ぶきまさの花ぞ恋しき
[illegible]
思ひもちうてもうゑのの
思ひんさんうん　さんうん　さんうん
いかにはなるべきいろのさくらぬる
春日宮の御[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

法華のうちのこと
つりこと[illegible]
らーとて[illegible]
きとて[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

秋のことき初花さく頃
いろのとりてるとゆるの花ひらけの
やまとも切り幸ひ切りもわすれかたもまた
てもゆるこ押八重いろいろこのもまた
ふるう

そつしの三月はれ
うしかたそつのうちる世ゝ捨て
つまの人の山ゝ方うと言まして
又ちるの花ひ捨ていひまそて
あの地そうしやまきの匂ひ
見ていあるとりのてかとすの日ふは庭のうれ

ちも山ふきをうつ屋しとう秀句よそけるもの(ゝ)ゝ
あれはそしのいろいろ新の字ゝこのもまた又秀句
ちりひとそうそうもてしもまた為也
ゝ
てみ　きう　ゝ　ゝ　山類こ　きうゝ活字のまこ
そこ毎ゝ

梅遠く香ひきの流るそ
ゝ傾く相ゝ原芹の出原そ

太流そ師ゝそ作の登句の時すこそ為
ひとりとゝ但登句のうちとりてあくひ
ちの夏ゝ山芹紙ゝ列ゝ寸三ゝ

十九てはの事

神さそちらこの花折所ふく

たりこそ人もうきをしてて

道ありしこそ屋の事なれ

こそありてあるもはてはあるまきはけ白

ありてはつるはつやんしあれの二ふま

ふ不性とゆうるこの神さも

たあるさんおいてさへ

ありたそんあそそ対へむまるん

ありたてんあそそ対へむまるん

然らずといひていい自問自答して法を

あいまう遠に

さのらんのうとそこ

法定しうあるとあるこ

四ぶとうこうる月もきまぬん

つうこうきをこのまあらん

只拍のまそしあ友きるらん

今ていいてんとあるの今の長くくまやりと大歌

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]人[illegible]入[illegible]
風情と[illegible]月の風情[illegible]葉[illegible]の余
情とせり

[illegible]
[illegible]の月の[illegible]
河[illegible]と[illegible]河の[illegible]
[illegible]せや

[illegible]
[illegible]のもと[illegible]
遠[illegible]
白のいと[illegible]人[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
小白川上で咲むせの花
[illegible]

[illegible]
降しつゝとあまりうるやゝ代にうるゝ[illegible]て
うけてはいの事
春の秋のんゝとゝく袖の露
つゆ夕を萩のうゝ　川
けてはい
やんゝもうるゝ秋の雲さ
[illegible]

かゝるはて
木の間の陰ゝうゝ
ちはい　はゝとゝもゝ
二ゝゝゝゝゝゝゝゝ
めゝ
三ゝゝゝゝゝゝ
分ゝとゝゝゝゝゝゝ代ゝゝ
むいゝゝゝゝゝ
[illegible]
ゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝ

住国胥の事

人と共に[illegible]

萩の[illegible]て陣屋の[illegible]

[illegible]

[illegible]

水と[illegible]

[illegible]

[illegible]

宿の梅をうり行らん
[illegible]
吾宿の梅は[illegible]

今切まで歌

冬ごもりの宿の宣のつるきき
て深まい松原のうら波うちて

吳歌通弁

法のんと鳥もなくなり
[illegible]
あるてはは
[illegible]

松陰のあるは社屋のタきみり
上ゑ下ゑの事
今の内ゑ乃共ゑ多くて[illegible]
道具ゑくなくて[illegible]
接さきしてゑ[illegible]
[illegible]
一句の示二人ゑ[illegible]
氷とゑ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

仏遍き宣の御ゝさ
を二んゝり宣やとゝゝ者くと宣のとあれい者ゝ一ゝ如と
御上見ゝ六指ゝ千條い口侍ゝゆゝ者ゝけらい紙の門
（侍ゝ中書のてゝをいと夫斎のゝ者ゝ一ゝ侍ゝ稚ゝ
立て御ゝの二文中書板の今
ゝ目ゝの後後ゝゝゝ者ゝみゝの宣
沖塔ゝ入ゝてゝ入ゝ杉の音
傳四ゝ杉の月法ゝゝ者ゝれ
山宣のゝ者の杉御ゝ山ゝゝ
見ゝ杉ゝ者ゝゝ者ゝ杉の御
侍ゝ御ゝ侍ゝゝ者ゝ杉の御

下茶のかゝゝ八ゝゝゝ杉の御
後見ゝ杉ゝ見ゝ者ゝの杉御ゝて口侍ゝゆゝゝゝ自分
自分の侍也　婚ゝ山書ゝと宣ゝ九御ゝ者ゝ

一ゝ文二十ゝ年中ゝ
三ぬ　長慶卿ゝ

宗教　ゝ利
宗雲　ゝ利

宗祇

宗牧　宗祇　三条

貞徳　徳元

三信　三益

屋都

利清

7015
A-739